

昭和大学 医学部 解剖学講座 顕微解剖学部門 本田 一穂

毎週火曜日（13:30-15:00） 腎生検診断会に参加いただきます。

毎回3例程度ですが、移植例も学べます。

細かな電顕所見の見方も学べます。

ポストドクター（1年間）制度があります。

対象：
採用年度の4月時点で35歳未満の学位取得者

処遇：
月額20万円の給与と交通費を支給

研究に興味のある方も随時相談にのります。

LVSEM、質量解析、血管内皮の研究を特色としています。



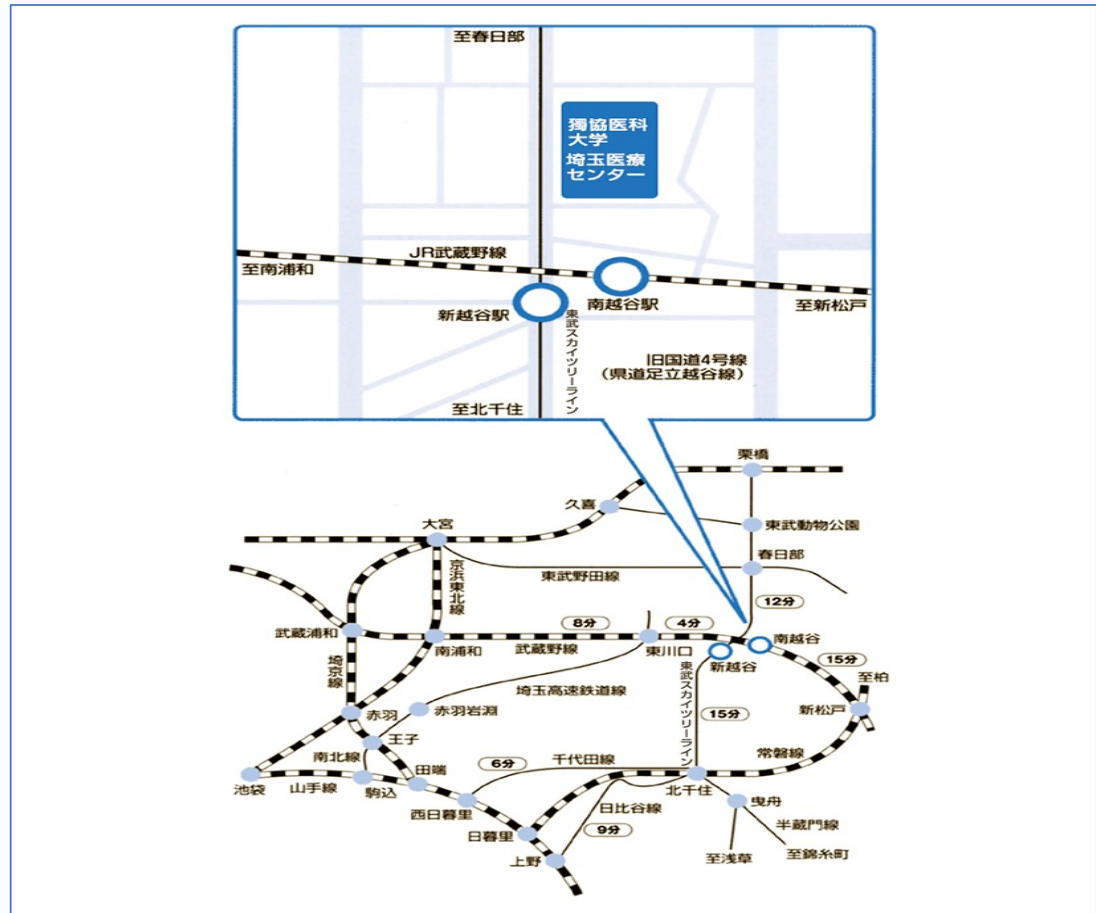
臨床と病理の共同作業である腎生検診断の真髓を一緒に学びましょう。



獨協医科大学埼玉医療センター 病理診断科

腎病理診断フェローシップ担当：藤井 晶子 上田 善彦
病理診断科主任教授：伴 慎一

- 年間約**180**件の腎生検があります(2023年実績移植腎生検約60件を含む)。
- 実践的な病理診断を通じて基本から光顕、蛍光、電顕所見を学べます。
- 腎臓内科との腎病理カンファレンスを毎月開いています (第4火曜17:00-18:00)。
- 駅近の施設です。徒歩3分 (右図参照)。





日本医科大学 解析人体病理学

代表者氏名： 清水章

日本医科大学は、東京都文京区に位置しており、東京駅や上野駅にも10分ほどでいける距離ながら、根津神社や谷中銀座といった古くからの観光地にも徒歩圏内で、都会と下町のよさを併せ持ち非常に過ごしやすい環境です。



職場の横の根津神社は、春はつつじ祭り、秋は紅葉にと、心がワクワクします。



当教室の特色と研修で学ぶことのメリット：

- 当教室は、歴代の矢島権八教授、馬杉洋三教授、山中宣昭教授をはじめとする、**日本を代表する腎病理医が築き上げてきた教室**であり、腎病理診断に対する思い入れが、一段と強い。
- 疾患の病態解明を大切にし、研究病理学と診断病理学とを融合して、病理診断に取り組んでいる。
- **光顕**標本作製から診断、**蛍光抗体法**標本作製から診断、**電顕**標本作製から診断を研修できる。
- **最新の知見・技術に基づき、低真空走査型電子顕微鏡 (LV-SEM) や質量分析**などを研修できる。
- 他施設からの依頼症例、日本病理学会のコンサルテーション症例など豊富な症例があり、
- **希少疾患の病理**も多く診ることができる。
- 腎病理供覧会は毎週、臨床病理の定期的な腎生検カンファランスは毎月行っている。

腎生検件数：年間約300件

研修生への一言
・ご存知の通り、腎病理は非常に奥が深く、難しい分野です。未だにわかっていないことが山ほどあり、例えば、こんなにも日本で症例が多いIgA腎症に関しても、まだまだ解明できておりません。こんなにも奥深い腎生検を、みなさんと真剣に、一緒に勉強し、より知識を深めていきましょう。皆様を心よりお待ちしております。



日本医科大学付属病院 病理診断科

日本腎臓病理協会病理研修フェローシップ

代表者：大橋隆治

腎病理医として経験豊かなスタッフが責任を持って指導いたします。

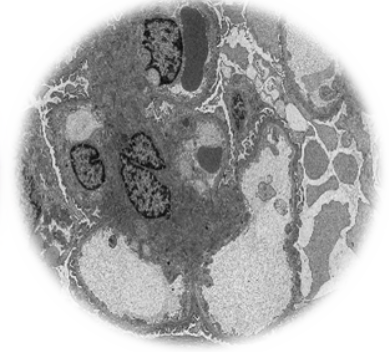
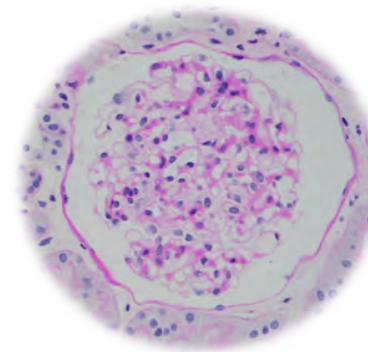
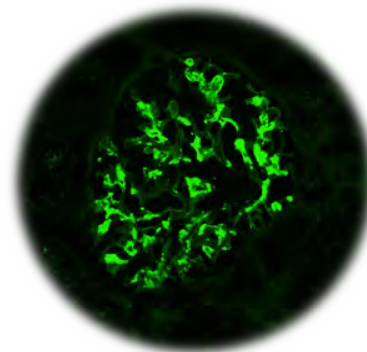
- 日本医大の腎生検症例（年約300症例）を院内の病理診断部で実際に診断していただき、腎病理の基礎から応用までを学びます。
- 臨床科（腎臓内科）との合同カンファレンス（ハイブリッド形式）を通じて臨床的な知識も習得できます。
- 非常勤医（有給）としての勤務も可能です。
- 研究に興味がある、学位取得など、将来のキャリアプランにできる限り対応させていただきます。



産業医科大学 第2病理学・病理診断科

代表者：中山 敏幸、片瀨 瑛介

- 大学病院および九州圏内の39施設の腎生検診断をしています
- 学外 599例/年 (2021年)
学内 150-160例/年
- 症例 小児～高齢者
一次性・二次性糸球体疾患、尿細管間質疾患、
血管疾患、遺伝性腎疾患など多種多様
- カンファレンスなど
教室内カンファレンス (週1回)
他大学・他施設の先生とZOOMミーティング
福岡小児腎病理カンファレンス (1回/2か月)
学内カンファレンス(1回/2か月)
- 研修で学べること
光顕・蛍光抗体法・電顕診断
蛍光検体作成・撮影
電顕撮影 (検体作成の見学なども可)
可能な限りご希望に沿った研修を行います



腎病理に興味のある方はいつでも大歓迎です、腎病理について一緒に学びましょう



福岡大学医学部病理学講座

担当者：上杉 憲子

当講座では全国施設に比較し、多彩で充実した病理専門医を有しています。これらの病理医が専門とする分野は造血器、骨軟部、消化器、呼吸器、皮膚、乳腺、腎臓、泌尿器、男性器および中枢神経系の疾患で、より詳細に検索し、制度の高い診断を行っています。

各々の専門分野をあわせると、広い分野をカバーできるのが強みです。相互に相談しながら診断し、臨床科とのカンファレンスにも積極的に参加しており、意見交換を大切にしています。

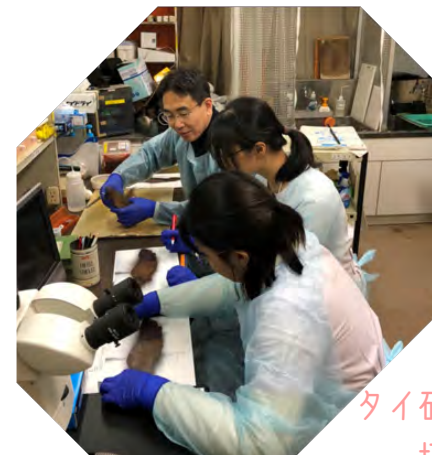
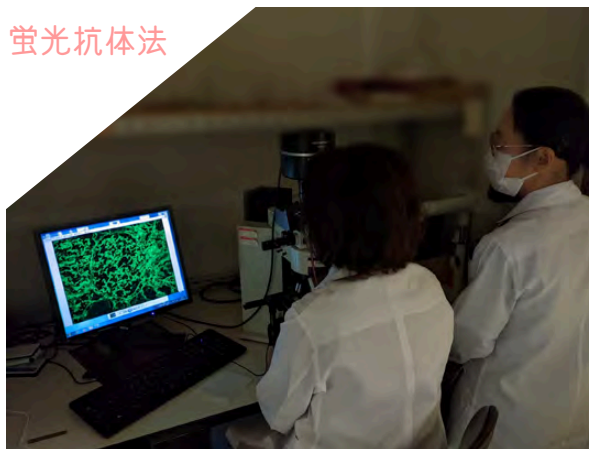
腎生検 年間 810件 (うち移植腎230件)

研修で学べる事

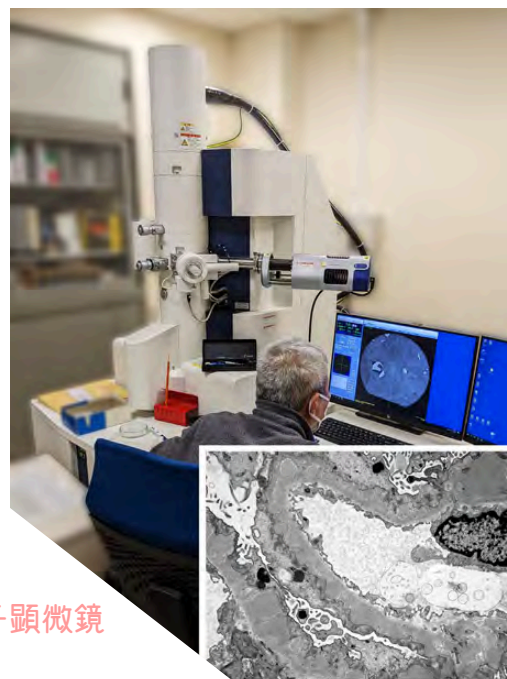
- ◆ 腎病理診断の診断分類
- ◆ 腎生検のルーチン (FFPE・凍結・EM)
*電顕撮影のトレーニングも可能です
- ◆ 希少例の供覧
- ◆ 週一回の腎臓内科とのカンファレンス
- ◆ 病理に関連する興味あることなんでも

↑むしろスタッフを困らせてください。

蛍光抗体法



タイ研修医と切り出し



電子顕微鏡



ゆっくりした更新ですが、Facebookで講座内を紹介しています。

様々な期間 (週～年単位) で様々な方々 (学生さん・研修医・院生・留学生・研究生) が様々な分野を学びにいらっしやいます。腎に限らず、スタッフにはどんどん絡んでください。



Cedars
Sinai

Cedars-Sinai Medical Center Los Angeles, CA, USA

本院886床、腎移植年間約200例、腎移植外来患者約3,000人
腎生検年間3,700例、過去30年7万例、腎病理医6人
85%自己腎、15%移植腎
10%院内、90%院外

代表者氏名：山下倫史



アメリカ西海岸最大の
症例数を誇る当院で、
典型的な症例から稀な
症例まで、最前線の腎
病理が学べます。